高速域でも実に平和、未体験の安定感だ

●REPORT：沼尾宏明 ●PHOTO：飛澤 慎

X-12に続く、SHOEIの最高峰フルフェイスが6年ぶりに登場した。斬新なエアロフォルムをはじめ、内装の角度調整、頬パッドの冷却システムなど、新デバイスを満載した意欲作だ。その実力はいかに？

［ショウエイ］

X-フォーティーン

税込価格：ソリッド＝6万4800円、グラフィック＝価格未定
●色：白、黒、艶消し黒 ●サイズ：XS、S、M、L、XL、XXL ●規格：JIS、SNELL、MFJ公認
※掲載写真のグラフィックモデルは'16年夏発売予定商品です。
問ショウエイ ☎03・5688・5180 http://jp.shoei.com/

⬅大型のリヤスタビライザーと、サイドフラップが最大の特徴。前作から浮き上がりを3%減、押し戻す力を10%減、ブレに至っては50%も低減した。フラップは、直進時の空力を重視したワイドタイプを標準装備。運動性を考慮したナロータイプをオプション設定する（1620円）。

○ 驚異の空力性能に加え被り心地も素晴らしい

レースでの機能を優先したXシリーズの最新作は、まず外観が未来的。賛否両論あるだろうが、実にカッコイイ。後方に伸びたスタビライザーのため大きく見えるが、手に持った時の重さはX・12とほぼ同じ。被ると、X・12より軽く、ホールド感が絶妙だ。レース向けの製品は、頬がキツい場合が多いが、後頭部を含め頭全体を満遍なく的確に支える。特に、広い面で包み込む頬パッドが心地いい。

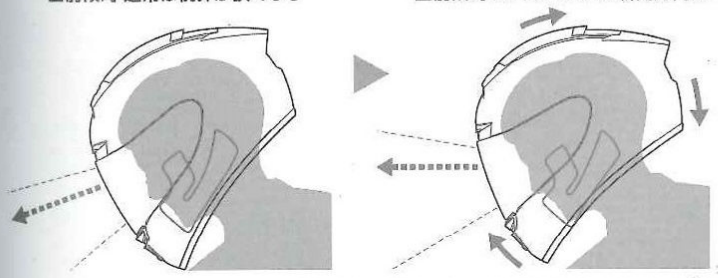
ダクト全開で走行すると、気温20度で40㎞／h程度から額上側に走行風を感じる。より速度を上げると、しっかり換気されている印象だ。さらに、停止状態だと頬がジワッと汗ばむ気温26度の天候でも、走行中に頬がベトつくことがなかった。真夏は不明だが、頬に走行風を導入する新機構は確実に効果がありそうだ。

そして、直進時の高速安定性能に驚いた。100㎞／hではピタッと安定し、130㎞／h程度でも浮き上がりがほぼない。ゴーッという風切り音はそれなりにあるものの、不快な音はなく、密閉性が抜群。ロアスポイラー装着時は巻き込み風も皆無だ。高速域で、ここまで「平和」なヘルメットをテスターは知らない。

× 標準では横向きの際押し戻される場合も

帽体が後ろに長いせいか、100㎞／h程度で横を向いた時に押し戻しを感じる場面も。だが、運動性能を重視したオプションのリヤフラップが用意されており、こちらに変更すると解消されるかもしれない。

■前傾時 通常は視界が狭くなる　■前傾時 X-Fourteenの新開発内装



ヘルメットの被り角度を変えることで、適切に前方視界が確保できる。

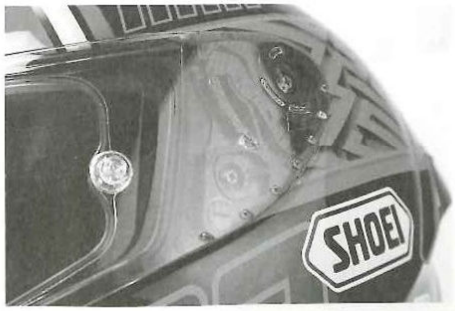
⬆強く前傾する車種は、ヘルメットのアイポート上端で視界を遮られるため、顔を起こす必要があった。X-14では、内装のホック位置を調整するだけで、被り角度を4度起こすことが可能。試してみると、想像以上に視界が良くなった。首が疲れにくく、今までより深く伏せることも可能だ。

⬆イヤーパッドを外せば、広いスペースが出現。耳元がキツい場合に調整でき、スピーカーホールとしても使える。

➡強い前傾姿勢でも効果を発揮する上下2段式のエアインテークは、X-12より換気性能を大幅アップ。シャッターは、頭頂部で3段階、額で2段階に調整できる。リヤの排気ダクトは常時開放式だ。

⬇シールド縁の突起は、表面に張り付く空気を剥離するボーテックスジェネレーター。F1などで採用する技術で、ヘルメットには初採用のはず。ピンロックシートが同梱され、捨てシールド（オプション）にも対応する。

⬆首まわりの空力性能を高める着脱式ロアエアスポイラーを採用。口元のダクトも上下2段で、下側はチンガードから頬パッド裏側に風を送り込む。



結論

"こんな人におすすめ"

SS乗りはもちろん ネイキッドにもマル

使用を想定した200㎞/h超は試せなかったが、被り心地と高速安定性能は、正直言って感動モノ。被り角度の調整などSSユーザーに最適の製品だが、この高い空力性能は、ノンカウルで多くの恩恵を得られるだろう。